

玉津校区タウンミーティング開催報告

日 時	令和3年11月25日（木） 19：00～20：30	
場 所	玉津公民館2階ホール	
参加者	<p>【地域側：13人】 玉津校区連合自治会 会長・副会長・総務担当・防災担当、玉津親友会長、玉津小学校PTA会長、玉津小学校長、ボーイスカウト11団支部長、玉津保育園長、玉津駐在所長、消防団玉津分団長、防災士地区長、民生委員地区長</p> <p>【傍聴者：4人】</p> <p>【行政側：4人】 市長、玉津公民館長、危機管理監、建設部長</p>	
次 第	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 挨拶（玉津校区連合自治会長） 3 市長挨拶・事業説明 4 意見交換：テーマ「玉津校区を水害から守るために」（現状と課題説明及び参加者全員による話し合い） 5 まとめ・閉会 	
概 要		
自治会長挨拶	<p>西条市は若者が『住みたい田舎』で2年連続全国1位である。水や自然環境のすばらしさが奏功してのことだろう。</p> <p>玉津校区では、水害のことをより考えていきたい。</p>	
市長事業説明	<ul style="list-style-type: none"> ・ コロナウイルス対策については、ワクチン接種の安全安心な環境整備と、市民生活を取り戻すため経済対策に重点を置く。 ・ 西条市の将来推計人口は30年間で約28%減少（2015年 108,174人 ⇒2045年 78,307人） ・ 人口減少対策のひとつに移住推進に力を入れている。今年度はSDGs「未来都市」の選定も受け、経済・社会・環境面から「持続可能」なまちづくりを進めていきたい。 	
参加者の発言要旨		市の発言要旨（及び対応）
<p><渦井川・室川の水害対策について></p> <p>平成16年の台風では、飯積神社前の渦井川で流木が詰まった。その後、河川管理者である愛媛県が浚渫工事（水深を維持し、河川の流量を確保するために土砂を取り除く）を行っている。</p> <p>室川の対策はどうなっているか。</p>		<p>愛媛県によると、近年は渦井川の飯積神社前（船屋王至森寺線の大橋）付近、室川の刑務所から戻川橋付近を掘削している。</p> <p>上流の土砂を優先的に撤去することで、下流への流出を防いでおり、県では全体を見ながら緊急性の高い箇所から行っている。</p>
<p>渦井川と室川の合流地点より下流（横黒から市塚方面）は、高潮時に防波堤を超える可能性が高いのではないかと。</p>		<p>県でも認識されているが、現在は、治水対策として界谷川の改修工事をしており、他は河床掘削により河床を1m下げることによって流下能力を高めることを優先している。</p> <p>高潮対策については、次の段階になるかという見解である。</p> <p>市は県に要望する立場になるが、優先順位を上げてもらうためにも地域の声を正しく伝えてまいりたい。</p>
<p>玉津橋、飯積橋、下島山橋では橋脚で流木が詰まる。橋脚を拡張または、一本橋の形状にする等の案も出したが、すぐには難しいようである。</p> <p>飯積大橋の下で、作業車が土砂を取り除いているのを見たことがある。</p> <p>鶯橋付近でかなり雑木が増えているのが心配である。県の職員にも見てもらったが、対策を後押ししていただきたい。</p>		<p>地域の方から報告を受けた内容は、現地確認の上、県に伝えていく。</p> <p>市内には危険箇所が他にもあると思うが、市も一緒にアプローチしていく。</p>

参加者の発言要旨	市の発言要旨（及び対応）
<p><浸水対策について> 河川上流を優先で掘削しているとのことだが、下流への流れが良くなると、下流付近の住民は浸水が心配になる。 平成29年の大雨の際、消防団の巡回活動解散後、市塚近辺で足元20cmほどの水が溜まっていた。 上流と同時に下流でも対策しないと、恐怖感は消えない。</p>	<p>宅地化が進んだことで、土水路からコンクリート製の水路になり、水の流れが速くなったことが浸水被害を大きくする原因の一つとも言える。 低平地にある住宅や道路は、昔に比べて浸水対策の必要性が大きくなっている。 居住地は、河床掘削とは別に対策しなければならない。</p>
<p><河川のライブカメラについて> 河川にカメラを設置して、リアルタイムで水量や流れが見えるように、ホームページなどで動画を配信してはどうか。 過去に災害が発生した地点や水が溢れる可能性が高い地点などの要所に設置し、誰でも見ることができるよう行政で考えていただきたい。</p>	<p>カメラ監視は市内10数か所で実施している。今年から、県が渦井川（飯積橋）にカメラを設置し、インターネットで配信している。県と連携しながら設置場所などは検討したい。 大雨警報発令時には、気象台からホットラインで情報を得ており、市対策本部室ではモニターカメラにより職員が観測している。 市民の皆様へ正しい情報を届けることは行政の役割であり、カメラ設置は一つの案だと思うが、これからは住民の皆さんからの配信も大切にしなければならない時代かとも感じている。</p>
<p><避難施設の整備について> 平成16年の台風時、玉津公民館は避難場所になっていたが、1階は浸水して機能しなかった。 水害時は玉津小学校の体育館も避難場所として機能しないだろう。場所を移すか、床を上げるなど、対策を検討していただきたい。</p>	<p>津波・洪水災害時において、小学校体育館は緊急避難場所には指定していない。（玉津小学校・玉津公民館は2階以上を指定している。） 避難所のために各施設を改修、新築する計画はないが、体育館については、地域の人口推移や施設の老朽化等の状況から更新の必要性を検討していく。 当該施設の更新時には、ご提案いただいたことを意識していきたい。</p>
<p><施設を利用した避難訓練について> 住む地区によっては、西条校区に隣接しており、避難場所が総合体育館やひうち陸上競技場になる。 防災訓練は、避難場所を基準に行いたい。また、自治会内は年配の人が多いため、防災活動は西条校区に住む人も一緒に巻き込みたい。 施設の職員は、訓練の際にも意識を持って対応していただきたい。</p>	<p>「校区に縛られず」という点では、防災士が新しく『西条防災ネットワーク』を立ち上げ、広く活動しているところである。災害があった地域・被災経験のない地域の防災士が連携し、校区を超えて訓練などを呼びかけることも可能である。 また、施設職員においても平時からしっかり心構えを持って対応させるようにする。</p>
<p><東部公園の防災活用について> 新しく整備される東部公園は高台に位置しているので、利用したいと思っている。 飯岡校区内にあるが、我々も避難場所として利用して良いのか。</p>	<p>東部公園も含め、新しく公園や施設ができるごとに避難場所・避難所に指定し、災害発生時には避難場所としてどなたでも利用可能である。 タイムライン作成の際には、公共施設だけでなく、各自でも安全なところ（知り合いの家や地域の集会所など）を確認することが大切である。</p>
<p>東部公園が、一時避難場所になることを鑑みて、現地で「防災フェス」をしてはどうか。 玉津校区に転入した人は平成16年災害があったことを知らず、驚く人が多い。水害時にどこへ逃げるのかを十分認識できていないと感じる。 そこで、実際に避難が想定される場所で、避難時の行動を体験し、親子で一緒に「ここが避難場所」ということを認識できる機会を設けていただきたい。</p>	<p>各自治会が防災訓練や協議会を開催する際に、行政も加わり、説明会や訓練の支援を行っている。校区の防災活動として、公園を利活用していただきたい。 行政としては、市民の方が必要な情報を正しくキャッチできるように、情報の多重化や繰り返し発信するなど、より良い情報発信に努めたい。 また、子ども達に「新しくできた公園行ってみよう」と言ってもらい、「遊びに行ったあの場所が逃げる場所」と親御さんも連想できれば良いのではないのか。</p>

参加者の発言要旨	市の発言要旨（及び対応）
<p><具体的な避難行動について> 玉津校区のほとんどの建物が、2階を含め床下浸水する可能性がある。 いざという時にどう行動するか、どこに逃げるかを話し合いたい。 川を越えて避難場所に行くような場合も心配である。</p>	<p>玉津校区の中でも、それぞれの地区で事情が違うので、皆さんが状況を確認することが大切。 特に風水害は事前の予測がある程度できるので、公共施設だけでなく、ご自身で安全なところ・逃げるところを事前に確認しておき、早めの避難ができるよう呼びかけている。 地域の中でどのような災害リスクがあるか、事前の準備を考える「タイムライン作成」を概ね校区規模で推進している。 玉津校区は防災意識の高い地域である。近年は、活動が進んでいない面もあると思うが、継続した努力が命を救うことに繋がる。市職員もサポートするのでお声がけいただきたい。</p>
<p><防災学習について> 玉津小学校では、6年生が防災学習を実施中で、愛媛大学の先生を招いて基礎知識を学んだり、校区内の危険箇所や避難できる場所、AEDの設置場所などを見て回ったりし、活動してきたことの発表会を計画している。 防災意識が高まっているタイミングで、地域の方や防災士と一緒に避難訓練などもできると良い。 ボーイスカウトでは、地域の子ども達に野外で青少年教育をしている。自然の中での体験を踏まえて、災害時の自助、共助の技能を身につける手段になっていると思う。 過去には、体育館で寝泊まりして「防災キャンプ」を行った。それが、西条市の12歳教育にも繋がったと聞いている。子ども達への防災教育を広く定着させていきたい。</p>	<p>防災学習では、先生方や地域の皆さんにもご協力いただき、防災キャンプや校区のマップづくり、話し合いの時間を設けている。まとめとして、市内全6年生が集まって発表する場面は、非常に良い機会だと思っている。 学習を通して、子ども達の防災意識が高まる瞬間があると信じている。その芽を摘まないように、その後続くような良い循環をつくりたい。 中学生・高校生の防災士、リーダーの育成や、訓練への参加、指導やボランティアなど、継続した活動ができるよう、市でも教育委員会や危機管理課が連携し、より良い防災教育をしていきたい。</p>
<p><家庭での防災教育について> 最近のマスコミなどを見ていると、行政に頼りすぎているように感じる。 大規模災害の発生時に、行政は玉津校区だけ助けてくれるわけではない。水害のリスクがある地域に住む人は、もっと知識を持っていないといけない。 まず、自分の家は自分で守る意識を持って、家庭内での防災教育もしっかりしていただきたいと思っている。</p>	<p>災害が広域になれば、なかなか公助が届かないということは、容易に想像できると思う。自助の観点では、地震の場合、風水害の場合で、逃げるところを家族で確認しておくなど、家庭内の防災教育も必要である。 家庭の役割、地域の役割、行政の役割をしっかりと包括しながら形づくり、市民総ぐるみでかかっていく課題である。</p>
<p><橋の拡幅について> 市道古川玉津橋線（西条市大町～玉津）の開通により、玉津橋の交通量が増えたが、橋が古い上に狭いので離合しづらい。 また、元橋も高欄が古く、低いので車両の方向指示器が見えづらい。ガードレールなどを視界が確保できるような構造にしてはどうか。</p>	<p>玉津橋と元橋はもともと県道であった。建設後、長らく経過しているが、橋の健全性は良好である。 橋を架け替えるのではなく、高欄を鋼製に改修するなど、安全性の確保に併せて幅員が拡がるような方法を検討していきたい。</p>
<p>まとめ</p>	<p><市長> 玉津校区といえど、核家族化・人口減少・高齢化等で課題はあろうかと思う。防災の観点からもそうだが、『市民総ぐるみ』が大切なキーワード。行政も一緒になって市民の皆様とともに歩みを進め、持続可能な西条市を次代を担う子ども達にバトンタッチしていきたい。 <連合自治会長> 玉津校区は11の単位自治会すべてに自主防災組織があり、年に1回は地区別懇談会、防災訓練を実施しており、今後も活発化させていくのが大事。 河川管理については溜まった土砂を撤去するにも、恐らく捨てる場所がないだろう。では、その土砂を利用して、防災公園を設置してはどうか、ということも検討していただきたい。 今日は、良い話し合いができた。川の、特に橋脚が詰まりそうな地点において、カメラ監視をお願いしたい。</p>

<当日の様子>

